

沖縄の魅力生かす集客事業

MICE
メニュー開発



沖縄のエンターテインメント創出、観光メニュー開発を県が支援する「元氣プロジェクト」。2010年度から始まり、4回目の13年度は21事業が選ばれた。本紙では3回にわたり、主なプロジェクトについて紹介する。第1回は「MICEメニュー開発」を進めている3社の事業をレポートする。（詳細は「沖縄元氣プロジェクト」で検索）

県内最大級プール活用



スプラッシュマリオットのイメージ

同事業は、ホテルの施設を利用した「チームビルディングプログラム」を設計するもの。チームビルディングとは、目的を達成するため、効果的な組織作りやチームをまとめる手法。リーダーシップやコミュニケーション能力、マネジメント能力向上を図る方法として近年注目を集めている。

恩納村北・名護市南地区の観光振興を図り、地開発拠点にもなっているラグーンリゾート名護が経営するリゾートホテル「オキナワ マリオットリゾート&スパ」のMICEメニュー開発だ。さらに沖

縄の伝統楽器を練習して買い出しから料理作りまでを体験する「マリोटトオケストラ」、地元食材の「キッチン」も準備した。

担当者の泉曉夫さんは事業の特徴として「プール」「地域貢献」を挙げている。「リゾートホテルのプールを利用したチームビルディングは今までにないメニューで画期的だと思う。またマリोटト

“南国の大自然”を満喫

タピック沖縄



園内散策プログラム「トロピカルクリニック」デモンストレーションの様子

つとさせる雰囲気の中、野外や園内の各施設を使用して、MICEの各種各層の顧客ニーズに合わせて選択できる「東南植物楽園オリジナルチームビルディングプログラム」を設計する。

同事業では、全員参加で目標を達成したりチーム対抗で勝敗を競ったりするなど、多種類のプログラムを用意し、シリーズ化する予定。11月には開発中の商品のデモンストレーションを行い、その結果を受けて販売に向けての開発作業を加速化させている。

昨年7月にリニューアルオープンした東南植物楽園（沖縄市）。4万5千坪の広大な敷地には、熱帯系を中心とした1300種3万本以上の植物に加え、そこに住む小動物がさらに植物園の雰囲気

キッチン、お客さまが地元の市場や小売店を利用することから始まる。お客さまだけではなく、地域の経済効果にもつながる」と意義を強調する。

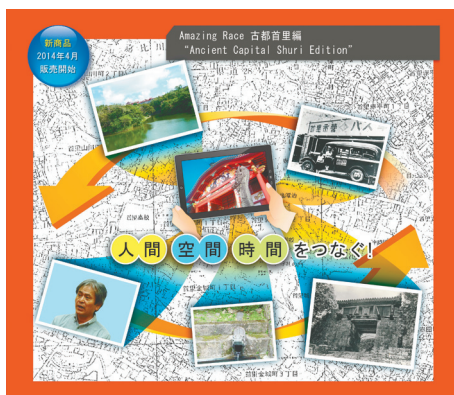
準備中の4メニューは、28、29日に大阪と東京で開かれる「沖縄観光&MICEフェア」への出展で概要を紹介する。同ホテルはすでに販売ツールの制作に入っている。同社担当者の下地裕之さんは「大規模で非常の雰囲気味わうことができる植物園全体を舞台としたMICEは、きっとお客さまの満足感を満たせると確信している」と話している。

ある景観づくりと伝統文化・技術の継承を通して誇りあるまちづくりを目指す。大指している「NPO法人首里まちづくり研究会」のアドバイスも受けている。

首里城を中心とした街中に約30カ所のチェックポイントを設け、参加者がGPS（衛星利用測位システム）とARを活用してポイントを探す。到着するとスマートフォンに課題とともに地域の歴史やお得な情報が流れる仕組み。

業界初のAR技術導入

DMC沖縄



現在開発中で、4月に発売する商品のイメージ図

機能携帯端末（スマートフォン）などを通して拡張して見せる技術。つまり、実際の映像上に文

昨年12月に運用テストを実施。さらに今月中に関係者による最終チェックの実用テストを行い、4月の販売開始に備える。

同社は現在、AR技術とスマートフォンを活用することによって、参加者用した街探索型のオリジナルチームビルディングプログラムの開発を進めている。ARとスマートフォンを組み合わせたチームビルディングは業界初の試みという。

同社では、首里地域に加え、2016年度中に宮古島や石垣島、那覇市街地など計7地域を網羅したメニューをそろえる計画だ。

県内で数多くのMICE事業を手掛けるDMC MICEメニューの開発（那覇市）。今回採

AR技術は、実際に見えてる現実をパソコンや高